令和元年度

福島県教育研究発表会（二次案内）

～明日の　福島の　教育をつくる～

本発表会は、福島県内の公立学校教員の優れた研究成果を共有するとともに、発表を通して県内各園・各学校の実践の交流を図るものです。また、福島県教育センターの研究・研修業務における成果発表の場とし、本県学校教育の向上に資することを目的として開催するものです。

今年度も、研究・実践の発表と講演を行います。いずれの内容も、明日の授業や学級・学校経営につながるものです。

＜期日等＞

・期　日　　令和元年１１月２８日（木）　午前９時４０分開会
・会　場　　福島県教育センター　（福島市瀬上町字五月田１６）
・主　催　　福島県教育センター
・後　援　　福島県小学校長会　　福島県中学校長会　　福島県高等学校長協会

＜日程＞

9:10　9:40　10:05　10:55　11:10　12:00　13:00　13:50　14:05　15:45　16:00

受付	開会行事	研究発表 1	移動	研究発表 2	昼食・移動	研究発表 3	休憩・移動	講演	閉会行事

○研究発表は、６つの会場で１８のテーマについて行います。
○参加申込みについては、Web 申込みとなります。教育センターWeb サイトの「令和元年度福島県教育研究発表会（二次案内）」から入り、「参加申込み」をクリックしてください。入力フォームが表示されますので、必要事項を記入・選択してお申込みください。
○参加希望する発表の番号（次頁の「研究発表の詳細」を参照）及び昼食希望の有無を忘れずに選択してください。
○今年度、当センターは河川工事中のため駐車できる台数に限りがあります。車の相乗りや公共交通機関の利用に御協力ください。
○申込み期間は１０月１日（火）～１１月１１日（月）までとなります。

Future
From
Fukushima.

ふくしまから
はじめよう。

発表１（１０：０５～１０：５５）

番号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
１１	高等学校におけるアクティブ・ラーニングの視点を生かした学習指導の在り方（２年次） ～研究協力校における実践的研究～ 福島県教育センター 指導主事　渡邉　義和	高等学校のアクティブ・ラーニング 自ら知識・技能を獲得する学び 授業改善	県の喫緊の課題の一つに児童生徒の学力向上が挙げられます。そのため、アクティブ･ラーニングの視点から、授業改善の取組を推進していくことが必要です。 研究協力校の授業者とともに、生徒自ら知識・技能を獲得する学びを重視した単元構想・授業実践を行いました。また、授業づくりのポイントの明確化を図りました。２年間の研究で取り組んできた高等学校における授業改善の試みを紹介します。
１２	学びのスタンダード推進事業における醸芳中学校の取組 ～主体的に取り組み、学び合い、高め合う授業の創造～ 桑折町立醸芳中学校 教諭　星　雅人	授業スタンダードの自校化 タテ持ち 互見授業	本校は「学びのスタンダード」推進事業のパイロット校として、授業改善と教員の指導力向上を図っています。数学科における授業のタテ持ちの指導体制や互見授業の推進、また、秋田県で進められている探究型授業を参考に「授業スタンダード」を自校化（授業を４つのステップで展開）し、学校全体で共通実践を進めています。３年間の取組から見えてきた成果と課題を紹介します。
１３	問題解決に向けて学び続ける児童を育む算数科授業づくり（２年次） ～「学びのサイクル」の連続を自覚させる学習過程を通して～ 二本松市立二本松南小学校 福島県教育センター 長期研究員　大河　真司	新たな問い 問い直す観点 よさをとらえる振り返り	算数・数学の問題発見・解決の過程において、得られた結果を問い直し、新たな問いを見いだして解決する授業展開が求められています。 本研究では、得られた結果から子どもたちが見いだした新たな問いを解決する過程を繰り返すことで、よりよい結果や考え方を追い求めることができる授業づくりを提案します。
１４	児童一人一人に社会性を育み、「よりよい集団」をつくる指導の在り方 ～「協働」を目指す、情動を踏まえた社会的スキルの育成を通して～ いわき市立湯本第一小学校 教諭　徳永　一夢	社会性 協働 情動	学校が児童にとってのびのびと過ごせる楽しい場所であるために、他者との関わりを学ぶ場としての学校の役割に着目しました。 行動と感情の関連を踏まえた個人の社会的スキルを高める指導援助を行うことで、多様な感じ方や考え方をもつ他者と協働する児童の姿を目指しました。

番号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
１５	即興で話すこと［やり取り］の力を育成する指導の在り方（２年次） ～Reaction,Comment,Question の適用とやり取りの視点に基づいたルーブリックの活用を通して～ 白河市立白河中央中学校 福島県教育センター 長期研究員　鈴木　淳子	話すこと 即興 やり取り コミュニケーション・ストラテジー ルーブリック	英語でのやり取りを継続させるためのコミュニケーション・ストラテジーと、一つの話題を発展させるための手法を身に付けることで、話すこと［やり取り］の力の向上を目指しました。発話語数、やり取りの往復数、話題の一貫性から手だての有効性を検証します。また、生徒の意識の変容を分析します。
１６	数学的活動を通して論理的な思考を育成する学習指導の在り方 ～筋道を立てて説明し合う活動を通して～ 福島県立岩瀬農業高等学校 教諭　宗形　聡	解答の筋道の文章化 ペアによる説明活動	普段の生活で自分の気持ちや考えを順序立てて伝えられない生徒が多いと感じます。自分の考えを言葉で表現することは、学習内容の理解を深める上でも有効です。そこで、数学の授業においてすべての生徒に説明する機会を設けました。本研究は、計算のアルゴリズムや解法の手順を文章にし、筋道を立てて簡潔に説明する活動を行うことで、論理的な思考を育むことを目指した実践です。

発表２（１１：１０～１２：００）

番号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
２１	高等学校の学びを意識した小・中学校をつなぐプログラミング教育の在り方（１年次） ～プログラミング的思考を生かしたプログラミングを通して～ 福島県教育センター 指導主事　今野　信孝	プログラミング教育 小・中・高をつなぐ	新学習指導要領で求められる小・中・高等学校を通じたプログラミング教育を充実させるために、校種間での相互理解を深め、切れ目のないプログラミング教育を提案します。 １年次は、2020 年度からの小学校において必修化されるプログラミング教育の取組を中心に、プログラミング体験を取り入れた授業実践、さらに、各教科等におけるプログラミング的思考の育成を図る授業について紹介します。
２２	自ら考え、表現し、学び合う生徒の育成 ～主体的で対話的な学びの工夫を通して～ 郡山市立緑ケ丘中学校 校長　柳沼　久裕	学級を『望ましい学習集団』へ Q-U 検査と学級力アンケートの活用 主体的・対話的な授業	学力向上には、授業改善はもちろんですが、学級を「望ましい学習集団」に変容させていくことが重要だと考えています。 本研究は、学級づくりの一環として、「Q-U 検査」と本校独自の「学級力アンケート」を活用し、客観的に学級を分析し、その実態を踏まえて、教科ごとに「主体的・対話的な授業のあり方」を追究した実践研究です。「学級経営」と「教科指導」の相乗効果について、あらためて考える機会になれば幸いです。

番号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
２３	活用力を育み高める算数科の授業の創造 ～対話的な学びを通して～ 喜多方市立塩川小学校 教諭　五ノ井　達也	自己肯定感を高める「なかたくタイム」 親和的な学級集団づくり 対話的な学びの工夫	本校では、算数科において「活用力」を育み高めるため、対話的な学びに焦点を当てて研究に取り組んできました。対話的な学びを充実させるためには「自己肯定感」を高めること、親和的な学級集団をつくることが前提条件になります。この前提条件をもとに、対話の場面で、対話のツールの活用や教師のコーディネートの工夫に取り組んだ実践です。
２４	自分の気持ちとうまく付き合いながら人間関係を育む指導の在り方 ～ストレスマネジメント教育を通して～ 福島県立湯本高等学校 教諭　森藤　文葉	自己理解 他者理解 自分自身・相手との関わり方	アンケート結果から、高校生であっても限られた方法でしかストレスを軽減していないということが分かりました。そこで、ストレスの概念を理解させ、様々なストレス軽減の方法を体験させることで、生徒の今後の学校生活に役立ててもらいたいと考え研究を行いました。 発表では、ストレスマネジメントとストレスの観点に基づいたソーシャルスキルトレーニングを取り入れた授業実践を生徒の様子や感想を交えながら具体的に紹介していきます。
２５	自ら自然にはたらきかけ、ともに学び続ける理科学習 ～問題解決の力を育てる学びの連続する単元構成の工夫～ 田村市立滝根小学校 教諭　藤井　千絵	単元シラバス 子どもの問いがつながる単元展開 中学年・高学年学習モデル	活用力を身につけることが課題であると言われて久しいです。しかし、活用力を育成する問題解決的な学習が行われているとは言い難い現状です。 そこで、本研究では、主体的な問題解決や考える楽しさを味わうことができる単元展開の工夫や、結果を整理し、級友とともに意味付けたり、関連付けたりする考察の工夫を通して問題解決の力の育成に取り組みました。その実践について報告します。
２６	文章の構成に対する意識を高め、内容を的確に読み取る力の育成 ～段落相互の関係を意識させる要約指導の工夫～ 福島県立郡山北工業高等学校 教諭　本間　郁	本文読解前の自力要約 相互添削の有効活用 YKK ワークシートの活用による可視化	評論文を「漠然と読む」ことから脱却し、文章全体の構成を意識しながら的確に読み取る力の育成を目指しました。要約を行うことにより、形式段落を正しく理解した上で、段落相互の関係を考察する活動へとつなげていきます。 発表では、本文読解前に行う自力要約や、要約の相互添削、また、要約を活用した段落相互の関係の可視化および数多くの対話的活動などの実践例を紹介し、学習活動の効果を検証します。

発表３（１３：００～１３：５０）

番号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
３１	音楽と紡ぎ合う児童の育成 ～他者と協働する音楽学習を通して～ 福島市立瀬上小学校 教諭　守谷　千晶	音楽と紡ぎ合うって何だろう? 音楽科を通して、児童が学級が変わってきた!	最初は日常においても、感じたことをうまく言えず受け身だった児童。しかし、意図ある音楽遊び、問いと音楽の要素を繋げる活動などを通して、主体的に思考する姿が見られるようになりました。「音楽と紡ぎ合う」ことを通して音楽を「違う楽器・歌声だけど、心は一つ」と捉えるようになるまで、どのような学びや変化があったのか、注目していただきたいです。
３２	他者と共によりよく生きることを学ぶ道徳教育 ～自ら考え、学びあう学習活動の工夫～ 南会津町立舘岩中学校 教諭　星　恒光	話し合いの工夫 トリオ学習 発問の工夫 道徳ノート 認め励ます評価	道徳性を養うために、自分なりの考えをもたせる工夫や、様々な考えに触れる話し合いの工夫などに視点をあてて研究してきました。その中から、ねらいに向かうために自分事として考えることのできる発問、じっくり考え自分と向き合う時間の確保、話し合いの型を示しての継続的な指導の重要性が見えてきました。
３３	自分の考えをもち、ともにかかわり合い、高め合う児童の育成 ～深い学びのための、知識や考えをつなぐ話合いの実践～ 塙町立塙小学校 教諭　近藤　靖子	「授業スタンダード」の活用 考えを深めるためのつなぐ話合い 学びを確かなものにするための振り返り	「学びのスタンダード」パイロット校として授業改善に取り組んで２年目。「みんなで考えることのよさ」「わからないことがわかる楽しさ」を感じ取らせながら授業を進めることを大切にしてきました。 特に、「考えを深めるための話合い」に力を入れて授業研究を重ね、話合いの焦点化や考えをつなぐコーディネートなどにより、教師と児童が共に高い意識をもって学習を進めることができました。その一年間の実践を紹介します。
３４	よりよい人間関係を育む指導援助の在り方に関する研究（２年次） ～対話的な学びを支える学級集団づくりを通して～ 福島県教育センター 指導主事　遠藤　寛之	よりよい人間関係づくり カウンセリング力・ガイダンス力 校内研修の充実	対話的な学びを充実させるためには、学級内によりよい人間関係が育まれていることが基盤になると考えます。そして、学級内によりよい人間関係を築かせるためには、教員の「よりよい人間関係を育む力」の向上が必要であると考えます。そこで、教員一人一人に求められる「よりよい人間関係を育む力」である、教員個々の「カウンセリング力」と「ガイダンス力」の向上を目指した校内研修を紹介します。

番号	研究・実践テーマ、発表者	キーワード	発表のここに注目！
３５	ICT を活用した英語教育の充実 ～主体的・対話的で深い学びの視点から～ 福島県立福島南高等学校 教諭　高橋　真由美	アクティブ・ラーニング 教職員チーム ICT	英国での ICT 活用研修内容、特に ICT 導入による英語の発信力を高めるための授業実践について発表します。無線 LAN や電子黒板、タブレット端末といった ICT が充実していない本校において、発信力育成のための校内体制づくりや授業デザインの工夫などについても触れたいと考えています。 多くの先生方と情報交換できる場にしたいと考えています。
３６	豊かな言語感覚を育む「書くこと」領域における学習指導 福島市立平野中学校 教諭　渡邉　潤平	言語感覚 『視点』を見いだす学習活動 相互に検討する学習活動	生徒との関わりの中で、言語感覚を働かせながら書いて表現することに課題があると感じてきました。そこで本実践では、物語や短歌の創作の授業で、優れた作品の表現技法の効果を考え、創作した作品の表現を友達同士で検討する学習を行います。このような表現を吟味する学習を通して、言語感覚を働かせながら自分の思いを書いて表現できるようになっていく生徒の姿を紹介します。

講演（１４：０５～１５：４５）

「深い学び」の実現に向けて
講師　国立教育政策研究所初等中等教育研究部　総括研究官
山森　光陽（やまもり　こうよう）氏

《主な経歴》
・国立教育政策研究所初等中等教育研究部　総括研究官
・国立教育政策研究所研究員，主任研究官を経て現職
・慶應義塾大学，早稲田大学大学院非常勤講師
《主な著書》
・山森光陽・伊藤崇・中本敬子・萩原康仁・徳岡大・大内善広（2018)加速度計を用いた小学生の授業参加・課題従事行動の把握　日本教育工学会論文誌
・山森光陽（2016）．学級規模の大小による児童の過去の学力と後続の学力との関係の違い 教育心理学研究，64，445-455.
・山森光陽（2013）．学級規模，学習集団規模，児童生徒-教師比に関する教育心理学的研究の展望 教育心理学研究，61，206-219.
・「教育の効果」（監訳）（図書文化）
・「観点別学習状況の評価規準と判定基準」（図書文化）

国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官の山森先生をお招きしています。山森先生は教育心理学を専門とされており、学級規模が児童生徒に与える影響に関する教育心理学的研究、アセスメントが児童生徒に与える影響に関する研究をなさっています。ぜひ、ご聴講ください。

＜参加申込み・交通案内等＞

■参 加 費　　無料
■申込締切　　令和元年１１月１１日（月）
■申 込 先　　福島県教育センター
■申込方法
◇教育センターWeb サイトの「令和元年度福島県教育研究発表会（二次案内）」から入り、「参加申込み」をクリックしてください。
入力フォームが表示されますので、必要事項を記入・選択してお申込みください。
◇申込みが完了した場合には、入力フォームに記入したメールアドレスに、受付完了の自動送信メールが届きますので、確認をお願いします。
※入力が完了していない場合には自動送信されませんので、御注意ください。
◇河川工事中のため、駐車できる台数に限りがあります。車の相乗りと公共交通機関の利用にご協力ください。
◇昼食を販売いたします。購入を希望される方は、参加申込みの中でお申込みください。

■その他
◇上履きを御持参ください。
■会場所在地及び会場までの交通案内
◇会場所在地
〒960-0101　福島市瀬上町字五月田 16
電話番号　(024)553-3141（代表）
ＦＡＸ　(024)554-1588
◇交通案内
・ＪＲ東日本…東福島駅下車徒歩１５分
・阿武隈急行…福島学院前駅下車徒歩５分
・福島交通バス
（福島駅東口バスターミナル２番より乗車）
①宮代団地行き…県教育センター下車徒歩１分
②小坂行、③桑折行、④藤田行
⑤伊達・上ヶ戸経由掛田駅前行
⑥伊達経由保原行
⑦伊達経由湯野行
⑧伊達経由北福島医療センター行
それぞれ瀬上本町下車徒歩６分